

<日本選手権 プルデンシャル生命杯第69回ライスボウル：パナソニック22－19立命大>

◇1月3日◇東京ドーム

社会人王者パナソニックインパルスが8年ぶり4度目の日本一に輝いた。7年ぶり7度目出場のパナソニックは、5年ぶり8度目出場で7年ぶり4度目の日本一を目指した学生王者の立命大パンサーズを、22－19で下した。



前回2009年の対戦では立命大が17－13で勝利していたが、パナソニックが雪辱した。これで社会人は7連勝。対戦成績は社会人の21勝12敗となった。最優秀選手賞はラン攻撃で大活躍したパナソニックのRB横田惇（24）が獲得した。

【第1クォーター】

コイントスに勝った立命大が後半レシーブを選択。その結果、パナソニックが前半レシーブと決まった。そしてアメリカンフットボール国会議員連盟会長・麻生太郎副総理の始球式後、キックオフとなった。

パナソニックはDBポリーの好リターンで自陣47ヤード地点からの攻撃。最初はQB高田からWR木下へのパスで8ヤード前進後、RB横田の20ヤードランで敵陣25ヤードまで進む。さらにRBデュプリーが連続で走り、敵陣18ヤードへ。ここから3分30秒、佐伯栄の33ヤードFGが決まり、パナソニックが先制した。

代わった立命大の攻撃は自陣16ヤードから。最初のWR



渡辺のランで前進は1ヤードも、QB西山からWR猪熊へのパスで自陣41ヤードまで進んだ。さらにエースRB西村のランでファーストダウンを更新する。続くパスは不成功も、QB植村がキープランで前進した。ここで立命大は4thダウンギャンブルを選択。しかし、不成功に終わった。

この後はパナソニック自陣38ヤードからの攻撃に変わり、RB横田がラン、QB高田がスクランブル、横田が再びラン。しかし、ファーストダウン獲得には至らない。

立命大は自陣10ヤードからの攻撃。RB西村が右サイドを19ヤード走り、ファーストダウンを獲得する。そして、QB西山のキープランで7ヤード進むと、ワイルドキャットフォーメーションで猪熊がQBの位置に入るが、ゲインはできない。しかし、ここでパナソニックがオフサイドの反則。立命大はファーストダウンを獲得した。そして、QB西山からWR渡辺へのパスで5ヤード進むと、TE成田



への13ヤードパスでファーストダウンを更新した。すると、敵陣42ヤードから西村が中央突破。敵陣25ヤードまで進んでファーストダウンを更新した。さらに、ここでパナソニックがパスインターフェアランスの反則で15ヤード罰退。立命大はゴール前10ヤードに迫る。ここで西山が走って5ヤード前進した。さらに西村のランで残りは3ヤード。しかし、続くエンドゾーンへ走った成田へのパスは不成功。ここで立命大はK柝尾の19ヤードFGが決まり、13分13秒、3-3の同点となった。

次は自陣47ヤードからパナソニックの攻撃。RBデュプリーのランで4ヤード進むと、QB大原の15ヤード・キープランでファーストダウンを獲得した。続くラン攻撃は1ヤードのロス。ここで第1Qが終了した。

【第2クォーター】

パナソニックはRB須賀のランで6ヤード前進。さらにWR本多へのパスで2ヤード進むが、ファーストダウン獲得には至らない。すると、1分30秒、佐伯栄の43ヤードFGが決まり、パナソニックが6-3と再びリードを奪った。

立命大はキックオフ後のタッチバックで自陣25ヤードからの攻撃。WR猪熊へのパスで8ヤードゲインする。さらに、QB植村からTE成田への22ヤードパスでファーストダウンを獲得、敵陣44ヤードまで進んだ。しかし、ここからRB西村のランはパナソニックの守備陣にストップされてしまう。



対するパナソニックは、自陣8ヤードからの攻撃となり、QB高田からTE岸本へのパスで26ヤード前進。さらに横田の25ヤードランで敵陣41ヤードまで入り込んだ。左サイドを走ったWR小山へのパスは不成功も、RBデュプリーのランで6ヤード進んだ。しかし、続くRB須賀のランではファーストダウン獲得には至らない。ここでパナソニックはK佐伯栄が49ヤードのFGトライ。7分31秒、ゴールポスト右寄りに成功させ、リードを6点に広げた。



DL脇坂にシャットアウトされてしまう。

◆パナソニックDL脇坂康生 立命大はスピードも、コンビネーションもあり、すばらしいチームだった。やっている方にはたまらない試合で、終わってほっとしている。平常心で欲をかかずにやろうとした。最後に勝てたのは応援のおかげだと思う。

立命大は自陣15ヤードからの攻撃。QBの位置に入ったTB長谷川からのハンドオフでWR猪熊が16ヤード走り、ファーストダウンを獲得した。さらに自陣42ヤードまで進むと、QB植村から猪熊へのパスで前進。続くWR渡辺からの42ヤードパスを受けたWR近江がゴール前に迫る。そして、RB西村のランで残りは3ヤード。しかし、植村からWR渡辺へのパスは1ヤードしか獲得できない。残り2分52秒、4thダウン2で立命大はタイムアウト。そして、ギャングルのラン攻撃を試みるが、パナソニックの46歳・鉄人



代わって自陣2ヤードからパナソニックの攻撃。RBデュプリーの連続ランでファーストダウンを獲得すると、RB横田がランでさらに8ヤード前進する。そして、またデュプリーが2ヤード走り、ファーストダウンを更新した。ここからQB高田はWR本多へ41ヤードのパスを決め、敵陣36ヤードまで攻め込んだ。さらに本多へのパスでゴール前22ヤードへ。しかし、続く高田のパスは立命大DB木村俊にインターセプトされてしまう。立命大の攻撃に代わるが、RB西村が5ヤード走ったところで前半が終了した。

◆パナソニックQB高田鉄男 あのパスは欲張ってしまった。レシーバーと合わないところがあった。

【第3クォーター】

レシーブの立命大は、タッチバックで自陣25ヤードからの攻撃。交代違反で5ヤード罰退後、RB西村が3回連続で走るが、7ヤードしか前進できない。



代わったパナソニックの攻撃は敵陣39ヤードから。RB横田が5ヤード走ると、TE岸本へのパスで3ヤード進む。さらに本多への7ヤードパスでファーストダウンを獲得した。この後、パナソニックはスナッフミスで大きくロスしたが、RBデュプリーがランでロングゲイン。25ヤードを走ってファーストダウンを獲得した。そして、ゴール前11ヤードから高田はWR遠藤へのTDパスを試みるが、不成功。そこで、ホールディングの反則を犯してしまう。ボールオンは21ヤード。ここでデュプリーが左サイドへ走り、ゴール前1ヤードでファーストダウンを獲得した。立命大タイムアウトの後、パナソニックはRB横田が中央突破。7分4秒、1ヤードTDランを決めた。しかし、2点を狙ったQB高田からWR頓花を経由したTE岸本へのパスは不成功に終わった。

◆パナソニックRB横田惇 OLが押している、スペースが空いたので、思い切りよく飛び込んだ。

パナソニックの15-3で、立命大の自陣17ヤードからの攻撃に代わる。RB西村、TB長谷川のランなどで前進を試みるが、ファーストダウン獲得には至らない。

パナソニックの攻撃は自陣36ヤードから。2ヤードロスも、立命大がパスインターフェアランスの反則。15ヤードの罰退でパナソニックがファーストダウンを獲得した。ここからRBデュプリーがランで33ヤードをゲインし、ファーストダウンを獲得した。さらにQB高田のスクランブルで7ヤードを前進。しかし、続くRB横田のランは立命大DL仲里に止められてしまう。さらにデュプリーのランは立命大DL大野が5ヤードのロスタックル。すると、佐伯栄の38ヤードFGトライも立命大にブロックされてしまう。



立命大の攻撃に代わり、自陣38ヤードから。RB西村が走るが1ヤードしか前進できない。さらに、WR渡辺がパナソニックDB斎藤に3ヤードのロスタックルを食らう。すると、その後のQB西山からWR猪熊へのロングパスも不成功に終わってしまう。ここで立命大はパントの構えから4thダウンギ



ャンブル。WR近江からWR宇治野への51ヤードパスが決まった。立命大はゴール前13ヤードまで前進。すると、ここまで抑え込まれていたRB西村が14分26秒、13ヤードのTDランを奪った。しかし、K栃尾のTFPキックは不成功。得点はパナソニックの15-9となり、第3Qが終わった。

【第4クォーター】

パナソニックの自陣32ヤードから攻撃はWR頓花のラン。ファーストダウンを獲得すると、次はRBデュプリーが走る。さらにQB高田がスクランブルで14ヤード走って、ファーストダウンを更新した。敵陣に入り、RB横田が20ヤード走る。ゴールまで24ヤードで、パナソニックは後半1回目のタイムアウト。ここからWR頓花がパスを試みるが、立命大DB奥田にインターセプトを食らってしまう。さらに、アンスポーツマンライクコンタクトの反則で罰退となった。



立命大の攻撃に代わり、自陣43ヤードからQB西山がWR猪熊へ36ヤードのパスを成功させる。そして、RB西村が右サイドを6ヤード走る。これで敵陣15ヤードまで進むと、さらに西村が走るが、パナソニックLB高山がストップ。さらにQB植村のランもDB斎藤にストップされてしまう。ここで立命大はK栃尾が32ヤードのFGトライ。6分43秒、これが決まって、パナソニックの15-12となった。



ここからゲームが大きく動く。なんとパナソニックがキックオフリターンでファンブル。それを立命大DB奥野にリカバーされてしまう。立命大の攻撃は敵陣12ヤードから。QB西山からTB長谷川へのパスでゴール前9ヤードに迫る。しかし、続くRB西村のランはDB斎藤がストップ。するとK栃尾の28ヤードFGトライも外れてしまう。

パナソニックの攻撃に代わり、自陣20ヤードから。RBデュプリー、QB高田のランではファーストダウン獲得には至らない。

残り5分4秒で立命大は自陣46ヤードから攻撃。ここでRB西村のランで2ヤード進んだ後、QB西山がWR猪熊への55ヤードTDパスをヒットさせる。残り4分19秒、K栃尾のTFPキックも決まり、立命大が19ー15と逆転に成功した。



残り4分12秒でパナソニックの攻撃は自陣35ヤードから。RBデュプリーが3回連続で走り、前進を試みるが、立命大DB木村俊にロスタックルされてしまう。パナソニックは後半2回目のタイムアウト。そして、4thダウンギャンプルを選択し、プレーに入ろうとすると、今度は立命大が3回目のタイムアウトと取る。しかし、高田は落ちついて小山への14ヤードパスでファーストダウンを獲得した。



残り2分3秒、敵陣48ヤードからのパナソニックの攻撃。なんとQB高田がサックを避けるための故意のパスミスで、反則地点まで13ヤード罰退してしまう。しかし、勝利に執念を燃やす高田はWR頓花へのパスで6ヤードを獲得。そして、スペシャルプレーをさく裂させる。高田からパスを受けたWR本多がWR小山へトス。小山がそのままエンドゾーンへ走り込み、55ヤードのTDパスでパナソニックが逆転した。試合時間残り1分31秒、K佐伯栄のTFPキックも決まり、パナソニック

は22ー19と、またもリードを奪った。

◆パナソニックWR本多皓二（相手ディフェンスを）できるだけ引きつけて、タックルされた瞬間に渡そうと思っていた。（高田）鉄男さんのボールも完璧だった。止まって見え、胸にぴったりきた。鉄男さんからのボールなので、心配していなかった。

◆パナソニックWR小山泰史 本多さんに相手ディフェンスがくっついてくれて、縦がガラ空きだった。（あのプレー前に）右サイドで本多さんと「ちょっと危ない感じ」と話したが、2人で笑っていた。落ちついて会話できていた。でも、あんなにきれいに通るとは思っていなかった。

残り1分26秒で立命大の攻撃は自陣19ヤードから。QB西山からパスを受けたRB西村がサイドラインを15ヤード走り、ファーストダウンを獲得した。西山は、さらにTE成田、WR宗村へのパスでファーストダウンを更新した。そして、次の攻撃でタイムアウトを使い果たした立命大は最初のパスを失敗し、時計を止める。その後、2度パス失敗で残り時間は55秒。ここで右サイドラインを走るWR猪熊への15ヤードパス成功でファーストダウンを獲得した。

残り44秒。またもパス2回を失敗した立命大。ここでWR近江への14ヤードパスでファーストダウンを獲得した。残りは26秒でパスを2回失敗する立命大。ここで2度目のパスは故意のミスと判定され、15ヤード罰退、時計も10秒進められてしまう。残り10秒でボールオンは32ヤード、QB西山のパスは不成功。そして、残り7秒、K栴尾の49ヤードのFGトライは不成功に終わり、立命大は万事休すとなった。

この後はパナソニックがビクトリーフォーメーション。時計を進め、8年ぶり4度目の日本一が決まった。



◆パナソニックQB高田鉄男 最後はサイドラインで「止めてくれー」と見ていた。今日は自分は良いところがなく、みんなのおかげでフットボールができた。JXB（ジャパンXボウル）での厳しい経験が生きた。立命大はオフェンス、ディフェンスともに素晴らしかった。

◆パナソニック荒木延祥監督 しっかりした試合をしたかったが、自作自演になってしまった。最後は選手が良くやってくれた。（最後の逆転TDの）あのプレーは何年か暖めていたものがうまくいった。選手が良く成長して、いつも通りのプレーができた。選手さまさま。お疲れさん、ようやくと言ってやりたい。

◆パナソニックRB横田惇 MVPは想像していなかった。（JXBから）持っている男の小山が取ると思っていた。呼ばれてびっくりした。OLが頑張ってくれたおかげで、感謝している。JXBの後は、ひたすら体のメンテナンスをした。そして、筋力を効かせたい部分を強化した。今日は全部出し切るつもりだった。高校からあこがれた舞台上で日本一になることができうれしい。

◆パナソニックLB高山直也主将 今年は絶対勝つ気持ちで時間外練習もした。リードされても、鉄男さんを信じ、危ないとは思わなかった。最後のあのプレーはひたすら練習したので、やるべくしてや

った。(相手のエースRB)西村には、穴を空けたら走られるので、役割分担を徹底して臨んだ。主将としてはフィールドで(勝利への)執念を出し続け、チームを信じ切るだけだった。チーム力はまだまだ上がると思う。来季は真の日本一に向け、勝ち続けるチームを一から作る。

◆立命大・米倉輝監督 選手たちは最後まであきらめずに頑張ったが、完敗。めちゃくちゃ大きい3点差だった。最後に外したウチのキッカーを責めるつもりはない。エンドゾーンで2回取り切れなかったのが痛い。ランプレーが止められており、現時点では社会人に通用しなかった。来年日本一を狙える力はない。真の力をつけさせるために一からチームを作り直す。

◆立命大DL田辺大介主将(4年) こんなに悔しい負けはない。3年生以下は当たり前のことを当たり前になして「日本一の武器」となるまで練習してほしい。しっかりやり切って、頑張してほしい。

◆立命大QB西山雄斗(2年) 逆転した時点で行けると思った。相手のミスにも助けられていたし。ただ、ここぞという時の社会人の力を意識した。練習し切れていなかった分が試合で出た。

◆立命大RB西村七斗(2年) 悔しい。パスも投げたが、タイミングが合わなかった。社会人のディフェンスは寄りも速く、タックルも強かった。結果的に遠い3点差。もう1度、この場所に来て絶対勝ちたい。

◆立命大WR猪熊星也(3年) (MIPに輝くも)負けたら意味がない。とにかく勝たかった。

◆立命大K栃尾優輝(3年) 決めきれなかったのが悔しい。最後に(入れば同点という)フィールドゴールを外して、頭が真っ白になった。練習でも決めていた距離だったが、TFPも含めて全然ダメだった。

【記事：日刊スポーツ 吉池 彰】

【写真提供 ハドルマガジン】